掛川市立総合病院

緑茶医療研究センター

平成17年10月12日、掛川市立総合病院「緑茶医療研究センター（センター長：五島一征院長）」が設立され、設立式典が行われました。センターは、掛川市の特産物である緑茶を使用した医療の効用についての臨床研究を進め、あわせて掛川茶振興に寄与することを目的に設置されました。

恐ろしいC型肝炎

最近の厚生労働省の調べでは、肝がんによる死亡が年々増加しており、特に中高年男性の罹患率が急上昇しており、社会的問題となっています。肝がんには、C型肝炎ウイルスによる①慢性肝炎→②肝硬変→③肝がんという道筋が想定されています。そのC型肝炎ウイルス保有者は、全国で150から200万人、うち70%がすでに慢性肝炎を発症していると推定されています。

C型肝炎にお茶を

そうしたなか、当院の鮫島庸一医務局長をはじめとする内科・消化器科の医師グループによる、C型慢性肝炎患者の治療に標準的な治療薬である「インターフェロン」と「リバビリン」に加えて、掛川市の特産である「緑茶」を併用した臨床治療には、以前からも多くの新聞やテレビ等で取り上げられ話題となっておりました。

C型慢性肝炎患者の肝臓には鉄分が蓄積し毒性を発現するので、その鉄分を除去するための手段として緑茶に着目しました。また、緑茶には抗酸化作用だけでなく、糖尿病・高脂血症を改善する効果も認められています。なにより、緑茶は安全で安価というメリットがあります。

掛川茶を使った緑茶粉末

さらなる効果を期待

現在行われている治療は、ペグインターフェロンとリバビリンに加え、緑茶の粉末を1日3回、1年間毎日飲み続けていただくものです。この方法による完治率の目安となる、4週目のウイルス陰性化率は、同じ症例の患者様の全国的な陰性化率を大きく上回る結果となっており、大変有望な治療になると期待されています。

この治療法では、副作用も少なく、医療費や治療における身体的なつらさ、時間など、余分な負担がかからないのが大きな特徴であり、さらなる効果が期待されます。

センターの役割

今回設立されたセンターは、そのような、緑茶との併用療法の支援に加え、「緑茶を組み込んだメタボリックシンドローム診療の支援」、「緑茶を使用する医療研究の支援」、「緑茶併用療法の効用の広報等」などを行うことにより、さらに長期的な視点に立った研究を進めていきます。

センター設立に先立ち、9月29日には院内の職員を対象に、勉強会も開かれ、会場満員の職員が集まり、その関心の高さが示されました。

今後も、センターの活動に皆様のご協力をお願い致します。